

2026年度久留米大学学校推薦型選抜（公募）A日程『出題の意図』
文学部

日 程	11 月 22 日	科目名	基礎学力テスト (国語)	問題番号	1
問1. 本文を正しく読解できているかどうかを問う。 問2. ある事柄について自身の軽々と関連付けて考察できるか、或はそれを正確に論述できるかを問う。					

2026年度久留米大学学校推薦型選抜（公募）A日程『出題の意図』
文学部

日 程	11 月 22 日	科目名	基礎学力テスト (英語)	問題番号	2
問題2 400字程度の英文を読み、問いに答える問題。 (1)(2) 英文の中の下線部分を和訳する問題。 英和・和英辞書持ち込み可なので、辞書を適切に使い、知らない英単語の意味を調べることができ、英文の構造を正しく理解しているか、を問う。 (3) 英文の内容を説明している8つの選択肢からあてはまらないものを4つ選ぶ問題。 英文の読解力と、それを適切に表現していることがわかるかどうか、を問う。					

2026年度久留米大学学校推薦型選抜（公募）A日程『出題の意図』
文学部

日 程	11 月 22 日	科目名	基礎学力テスト (情報)	問題番号	3
この問題では、情報社会学科において求められる「情報を集め分析し発信する総合的な探究能力」を向上させる意欲、素養があるかどうかを評価することである。以下、3点に分けて説明する。 第一に、受験生が統計資料を正確に読み取り、複数のデータを関連付けて分析できるかを評価することを目的としている。単純にグラフの数値を読むだけではなく、年代別の拡散率の違いから世代間格差を読み取る力、拡散理由の上位項目から人間の心理的要因を分析する力、さらに拡散手段の特徴からコミュニケーション形態の多様性を理解する能力が求められる。また、3つの図表を統合して偽・誤情報拡散の全体像を構築する総合的な分析力も重要な評価ポイントである。情報社会学科の学生として必要な、データに基づく客観的な現状把握能力を測る意図がある。 第二に、偽・誤情報の拡散は現代デジタル社会の重要課題であり、受験生がこの問題に対してどの程度の認識を持ち、批判的に思考できるかを測ることが出題の核心にある。単にデータを紹介するだけでなく、なぜ若年層の拡散率が高いのか、なぜ「驚き」や「話題性」が拡散動機となるのか、対面とネット拡散の違いが社会に与える影響はどのようなものかを深く考察する力が求められる。また、偽・誤情報が個人的な問題を超え、民主主義や公共政策に及ぼす影響を理解し、この問題の深刻さを社会的想像力をもって認識できているかも評価対象である。 第三に、複雑な社会問題に対して多面的かつ実現可能な解決策を提案できる能力を評価することである。行政・企業・教育機関といった異なる主体の役割を理解した上で適切な対策を提案できるかが問われる。行政には法制度整備や公的情報発信体制の構築、企業にはプラットフォーム規制やアルゴリズムの改善、教育機関にはメディアリテラシー教育の充実といった具体的で現実的な提案が期待される。理想論に偏らず、実効性のある対策を考える実践的思考力、さらに各主体間の連携や相互補完関係まで言及できる統合的な構想力も評価のポイントである。将来、情報社会の課題解決に貢献できる人材としての素質を見極める意図がある。 以上が、出題の意図である。					